

## 第1・2学年 生活科

### 1 学年の目標

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- (3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする。

学年の目標に示された資質・能力は、指導計画の作成や学習指導の展開において重要な指針となるものであり、ここに示された目標は、第2学年修了までに実現することを目指している。

### 2 内容

生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象との関わりを重視するという生活科の特質を基に9項目の内容（5ページ参照）で構成されている。

#### (1) 内容構成の具体的な視点

具体的な視点とは、各内容を構成する際に必要となる視点を意味する。以下に示す11の具体的な視点（前回の改訂と同様にア～サから成る）は、各学校で生活科の単元を構想する場合には、内容の位置付けとともにどのように単元構成に取り入れているかということにも配慮しなければならない。

基本的な視点	具 体 的 な 視 点	
自分と人や社会との関わり	ア 健康で安全な生活	健康や安全に気を付けて、友達と遊んだり、学校に通ったり、規則正しく生活したりすることができるようにする。
	イ 身近な人々との接し方	家族や友達や先生をはじめ、地域の様々な人々と適切に接することができるようにする。
	ウ 地域への愛着	地域の人々や場所に親しみや愛着をもつことができるようにする。
	エ 公共の意識とマナー	みんなで使うものや場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。
	オ 生産と消費	身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使ったりすることができるようにする。
	カ 情報と交流	様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合いながら、身近な人々と関わったり交流したりすることができるようにする。
自分と自然との関わり	キ 身近な自然との触れ合い	身近な自然を観察したり、生き物を飼ったり育てたりするなどして、自然との触れ合いを深め、生命を大切にすることができるようにする。
	ク 時間と季節	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。
	ケ 遊びの工夫	遊びに使う物を作ったり遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごすことができるようにする。

自分自身	コ 成長への喜び	自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び、自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができるようにする。
	サ 基本的な生活習慣や生活技能	日常生活に必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。

## (2) 内容を構成する具体的な学習対象

生活科における具体的な活動や体験は、単なる手段や方法ではなく、そのものが学習内容であり、目標でもある。つまり、生活科で育みたい児童の姿を、どのような対象と関わりながら、どのような活動を行うことによって育てていくかが重要であり、そのこと自体が内容となって構成されている。低学年の児童に関わってほしい学習対象は、以下のとおりである。

- |                    |         |       |            |        |     |
|--------------------|---------|-------|------------|--------|-----|
| ①学校の施設             | ②学校で働く人 | ③友達   | ④通学路       | ⑤家族    | ⑥家庭 |
| ⑦地域で生活したり働いたりしている人 | ⑧公共物    | ⑨公共施設 | ⑩地域の行事・出来事 |        |     |
| ⑪身近な自然             | ⑫身近にある物 | ⑬動物   | ⑭植物        | ⑮自分のこと |     |

内容を構成する際は、(1)「内容構成の具体的な視点」と(2)「内容を構成する具体的な学習対象」とを組み合わせ、そこに生まれる学習活動を核として資質・能力の三つの柱の育成を目指す。

## (3) 内容の構成要素

生活科の9項目の内容は、以下の四つの要素により構成されている。

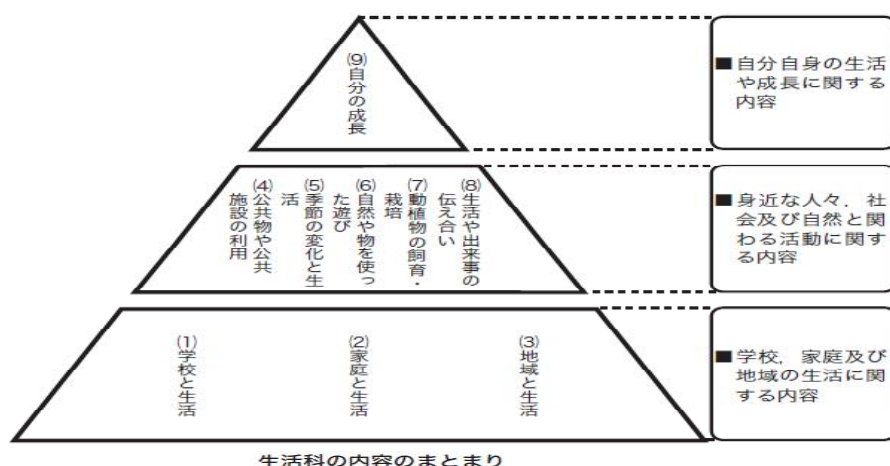
- ① 児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等
- ② 思考力、判断力、表現力等の基礎
- ③ 知識及び技能の基礎
- ④ 学びに向かう力、人間性等

例えば、この四つの要素の組み込まれ方を内容(6)「自然や物を使った遊び」において見てみると、次のようになる。

- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- ①学習対象・学習活動等
- ②思考力・判断力・表現力等の基礎
- ③知識及び技能の基礎
- ④学びに向かう力、人間性等

## (4) 内容の階層性

9項目の各内容の関係を下図のような階層の形で表す。まず、児童にとって最も身近な生活圏を第1階層とし、自らの生活を豊かにしていくための内容を第2階層、更には、自分自身の生活や成長に関する内容を第3階層とする。ただし、それぞれのまとまりに上下関係があるわけではなく、内容の大きなまとまり同士が分断されているものでもない。また、学習の順序性を規定しているものでないことに留意する。



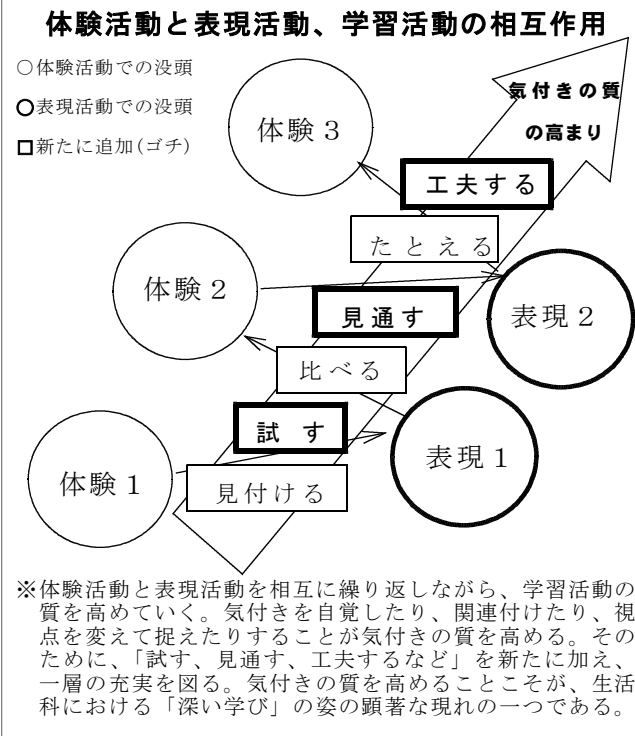
(5) 内容の全体構成

生活科の階層と 9 項目の内容、構成要素を一覧にしたものが、以下の全体構成表である。

階層	内 容	構 成 要 素			
		学習対象・学習活動等	思考力、判断力、表現力等の基礎	知識及び技能の基礎	学びに向かう力、人間性等
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	(1) 学校と生活	・学校生活に関わる活動を行う	・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える	・学校での生活は様々な人々や施設と関わっていることが分かる	・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
	(2) 家庭と生活	・家庭生活に関わる活動を行う	・家庭における家族のことや自分で行うことなどについて考える	・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる	・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
	(3) 地域と生活	・地域に関わる活動を行う	・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる	・それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	(4) 公共物や公共施設の利用	・公共物や公共施設を利用する活動を行う	・それらのよさを感じたり働きを捉えたりする	・身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる	・それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする
	(5) 季節の変化と生活	・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う	・それらの違いや特徴を見付ける	・自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く	・それらを取り入れ自分の生活を楽しもうとする
	(6) 自然や物を使った遊び	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う	・遊びや遊びに使う物を工夫しつくる	・その面白さや自然の不思議さに気付く	・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
	(7) 動植物の飼育・栽培	・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う	・それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける	・それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	・生き物への親しみをもち、大切にしようとする
	(8) 生活や出来事の伝え合い	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする	・身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる	・進んで触れ合い交流しようとする
自分自身の生活や成長に関する内容	(9) 自分の成長	・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行う	・自分のことや支えてくれた人々について考える	・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

### 3 内容の取扱い

- (1) 人、社会、自然を一体的に扱う学習活動の工夫
  - ・地域の人々、社会及び自然と直接関わり、それらを一体的に扱うよう学習活動を工夫する。
  - ・児童の側に立ち、児童の思いや願いに沿った必然性のある学習活動を展開する。
- (2) 体験活動と表現活動
  - ・身近な人々、社会及び自然に対して、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの身体を通して直接働きかける体験の楽しさを味わう。
  - ・活動や体験を通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法により表現し、考えることができるようにする。
  - ・表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりして、新たな気付きを生み出し、気付きの質を高める深い学びを実現する。
- (3) 多様な学習活動
  - ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行う。
  - ・自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりするような活動を必要に応じて適切に行う。
- (4) ICTの活用
  - ・学習活動を行うに当たって、コンピュータなどの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用する。
  - ・教科横断的な視点に立った資質・能力の一つである情報活用能力を育成するため、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図る。ただし、ICTを活用することが主たる活動ではないことに留意する。
- (5) 多様な人々との触れ合い
  - ・具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにする。
- (6) 生活上必要な習慣や技能の習得
  - ・遊んだり学習したり、人と触れ合ったり、豊かに生活したりするために必要な習慣や技能の指導については、それだけを取り出して指導するのではなく、人、社会、自然及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して、それぞれの具体的な場面で必要に応じて適切に指導する。



### 4 評価の観点の趣旨

- ・結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して評価する。
- ・学習過程における児童の「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を評価し、目標の達成に向けた指導と評価の一体化を図る。
- ・評価に当たっては、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉える。
- ・1単位時間、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉える評価も重要であり、さらに授業時間外の児童の姿にも目を向け、評価の対象に加えることが望まれる。

観 点	観点の趣旨
知識・技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。